



岡山大学疫学・衛生学分野ニュース vol.1

新型コロナ情報「小児新型コロナウイルスワクチン接種後副反応調査中間報告について」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野では、岡山県等と協働で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の対策を進めています。これらの活動を通じての調査や分析などの研究情報を、いち早く社会の皆様にお届けするためのニュースレター「岡山大学疫学・衛生学分野ニュース(新型コロナ情報)」vol.1を2022年5月24日に発行しました。

本ニュースは、専門の方向けではなく、一般の方向けとしてわかりやすい言葉で紹介しています。依然として新型コロナウイルス感染症のパンデミックが収まらない状況でありますので、少しでも皆様の感染対策の参考にしていただける正確な情報の提供につながればと思います。

<発表のポイント>

1. 岡山県の依頼を受け、岡山県内の協力医療機関で、5～11歳対象のファイザー社製小児用新型コロナウイルスワクチンを接種した者を対象に、接種後副反応調査を行った。
2. 1回目接種後の全身副反応は成人と比較しても少なく(37.5度以上の発熱 1.9%)、発熱があっても39度を越えなかった。
3. 接種部位の痛みや腫脹、全身の倦怠感(だるさ)の報告が多かったが、接種翌日まで続いた割合が最も高く、接種3日目以降まで持続する者は少なかった。
4. 基礎疾患・アレルギー歴があることで、明らかな副反応の出現割合の差は無かった。
5. 接種理由として大多数が、お子様自身の感染や重症化、後遺症を予防するためと回答した。
6. 先行報告となる2回目接種後副反応調査では、1回目より副反応出現割合が高かったが(37.5度以上の発熱 15.4%)、成人と比較すると全体的に低い傾向だった。

◆内容

岡山県の依頼を受け、ワクチン接種後の副反応の頻度を評価し、一般の方へ正確な情報提供を行うことを目的に、ファイザー社製小児用新型コロナワクチン接種後副反応調査を実施いたしました。中間報告では、2022年3月12日から2022年4月14日の間の調査回答分を集計しました。岡山県内の協力医療機関で、5～11歳対象のファイザー社製小児用新型コロナウイルスワクチンを接種した小児の保護者を対象にアンケート調査を実施し、626人が回答しました。

1回目接種後の副反応については、成人と比較して少なく、37.5度以上の発熱は1.9%で、発熱があっても39度を超えることはありませんでした。接種部位の痛みや腫脹、全身の倦怠感(だるさ)の報告が多くあり



ましたが、接種翌日まで続いた割合が最も多く、接種3日目以降まで持続した割合は低くなっていました。また、基礎疾患・アレルギー歴があることによる明らかな副反応の出現割合の差はありませんでした。

接種理由として大多数の方が、お子様自身の感染や重症化、後遺症を予防するためと回答しました。

先行報告となる2回目接種後副反応調査では、37.5度以上の発熱が15.4%となる等、1回目より副反応出現割合が高くなりましたが、成人と比較すると全体的に低い傾向でした。

◆調査成果の詳細情報

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野ホームページに掲載

URL: <http://www.unit-gp.jp/eisei/wp/?p=4923>

◆本件お問い合わせ先

岡山大学 学術研究院 医歯薬学域(医)疫学・衛生学分野

教授 頼藤貴志

助教 松本尚美

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1 岡山大学鹿田キャンパス 基礎研究棟 7階

E-mail: ocdc@okayama-u.ac.jp

※◎を@に置き換えて下さい

<http://www.unit-gp.jp/eisei/wp/>



国立大学法人岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」を支援しています。また、政府の第1回「ジャパン SDGs アワード」特別賞を受賞しています